みなみっ子

76 号

令和８年 10 月 14 日（水）
南城市立大里南小学校
文責　校長　與儀　毅

学校教育目標　　自立　　協働　　創造

大里南小学校のケンケンパやラダー、的当て、ジャンピングボードなどの環境の目的は？

アフォーダンス（Affordance）の考え方を活用した「意図的な環境構成」は、子どもに「運動しなさい」と指示・強制するのではなく、「環境そのものが子どもを特定の動き（跳ぶ・走る・投げるなど）へと自然に誘い出す（アフォードする）」ように学校環境をデザインするアプローチです。

1　アフォーダンスに基づく「意図的な環境構成」の基本概念

①直接的な刺激と誘発性:子どもの目に入ったデザイン（ライン、色彩、対象物）が、説明なしで「ここは跳び越えられそう」「ジャンプしたい」「狙って投げたい」という身体感覚を直接呼び覚まします。

②自己選択と段階性:難易度や遊び方を多様に用意しておくことで、子どもが自分の発達や能力に合ったアフォーダンスを自ら選択して行動します。

具体的な環境構成のポイント

①ケンパー（ケンケンパ）　片足立ち、ジャンプ、着地、リズム感の形成　円の間隔を一定にせず、徐々に広がるコースや分岐するコースを用意し、挑戦心を刺激する。

②ラダー（はじご）　細かなステップ、アジリティ（敏捷性）、足裏の感覚　、「高速ステップ」や「幅跳び」など子ども自身がルールを発見できるデザインにする。

③的当て　投球動作、目と手（足）の協調性、力の加減　外壁に、targets（的）を描く。

④ジャンピングボード　自分の体を空間内でコントロールする感覚やリズム感が養われます。楽しみながら体幹を鍛えることで、他のスポーツの土台となる運動神経の向上や、学習時の姿勢維持にも繋がります。

2　学校環境における実践的な展開（遊び場・移動空間）

①児童玄関や運動場近くの道を運動スペース化する

子どもたちが日常的に移動する場所にケンケンパやラダーのラインを引いておくことで、移動そのものが「遊び・運動」に変化します。走ってはいけない場所でも、ケンケンパや指定されたラインを跨ぐ運動なら安全かつ楽しく身体を動かせます。

②的当てゾーンでの「遊びのグラデーション」

壁に大きな的と小さな的、高所の的を配置し、手前には足元を示す目印を設置します。

まとめ

運動能力の向上や運動習慣の定着において、指示指導だけに頼るのではなく、「つい動きたくなる」「挑戦したくなる」ような意図的アフォーダンスを環境内に埋め込むことが、子どもの主体的で豊かな身体活動を引き出す鍵となります。

